

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表：令和2年3月13日

事業所名 デイサービスセンターあおば

保護者等数(児童数) 8 回収数7 割合 87.5%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	57%	43%				3月にエリアの見直しと再検討実施。(法律上は規定を満たしている)
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	86%	14%				基準以上の配置となっている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	71%	29%			・家庭で真似をしてみた。 ・バリアフリーは難しいのかなと思う。	内容には構造化された環境も含まれる。次年度は「構造化された環境がされているか」という文言を付ける。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	86%	14%				アセスメントデータに基づく個別支援計画を作成している。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか	100%					個別支援計画に基づき、日々の目標を設定している。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	100%					保育園巡回や園までの送迎等で交流の機会を検討する。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100%					個別支援計画・重要事項説明書を用いて説明している。
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	86%	14%			・行事等を楽しみにしているため、できればもう少し増やしてほしい	個別支援計画に基づき対応を検討する。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	29%	14%	43%	14%	・あおばの活動の中では機会がないように感じる。	サービス等利用計画に基づき相談支援専門員と連携し、併用される保育園等との情報共有を行う。
保護者 への 説明等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%					重要事項説明書の説明・交付により実施している。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	86%			14%	・ガイドラインのことがよくわからない。	ガイドラインは年度初回の個別支援計画の面談時に配布。同席していない家族にも内容は共有していただく。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか	100%					ペアレントトレーニング等は実際実施していない。実施を検討。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	100%				・毎日細かく状況を教えてもらっている。	継続する。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100%				・丁寧に話をしてくれ、支えになっている。	継続する。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	86%	14%				保護者懇談会を開催し、不参加者へもその内容を伝える。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	100%					個々の要望に合わせて対応したり、ニーズに合わせてお声がけしたりしている。
17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100%					アセスメント情報に基づいた支援の実施と、電話・メール等を活用。	

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表：令和2年3月13日

事業所名 デイサービスセンターあおば

保護者等数(児童数) 8 回収数7 割合 87.5%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	86%			14%	・年間行事が配布され、助かった。	広報「あおばだより」を発行し、行事予定や活動内容についてはHP・ブログ、個別の内容は個別に紙媒体でお伝えしている。
	19 個人情報の取り扱いに十分注意されているか	86%			14%		利用者個人情報保護マニュアルを作成し、対応している。情報は単年度で更新している。
非常時等の対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	86%	14%				保護者懇談会時に設置し、説明をする。その後は各事業所で保護者さんが見れるよう設置。
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	100%					避難訓練は毎月実施しているが、実施する曜日に偏りがないよう(実施していない子どもがいないように)配慮する。
満足度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	86%	14%			・毎日、楽しく行っている。	今後も全児童が楽しく通所できるよう工夫を続けます。
	23 事業所の支援に満足しているか	100%					今後も満足して利用いただけるよう精進させていただきます。

\*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

\*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことで、これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

\*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことで、子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

\*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶことで、子どもが適切な行動を獲得することを目標としています。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年3月13日

事業所名 デイサービスセンターあおば

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	50%	50%	・余暇エリアでの玩具の選別。また衝立の活用。	・同スペースでの活動を重複させないように、活動を設定する。
	2	職員の配置数は適切である	83%	0%	・未回答1 ・アルバイトの活用。	基準以上の配置となっている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	・視覚的なものを用いて提示している。また、視覚的なリマインダーを用いる時もある。	ニーズに合わせたエリア分けを実施している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	・毎日の丁寧な掃除。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%	0%		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	・ホームページの活用。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	83%	17%	・内部監査の受検は行っている。	第三者評価の受検を検討
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	・人材育成計画に沿って、各職員必要な研修を受講。研修の復命機会を設定している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	・利用前段階でご本人に来所してもらい、指示の理解や色・形、どんなものに興味があるか等アセスメントする。保護者とも話をし家で状況・課題になっている店等を聞き、個別支援計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		初回アセスメント時に使用しているツールを継続して利用、記録できるとよりよい。（定期的に更新する）
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	・担当者が立案するが、相談して修正したり、終了後の気づき、振り返りを行い、職員間で共有し、次に活かしている。	立案や方針検討をミーティングを活用し、チーム全体で情報共有して行う。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	83%	17%	・行事（外出等も含め）の実施。 ・日々の活動は固定化しない工夫が組み込まれている。	活動内容を児童に合わせ、より個別化する。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%		
適切な支援	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	・朝のミーティングで確認。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	17%	83%	・多機能であるため当日必ずというわけではない。放デイについては担当と児発管の間で共有されている。翌日等になることもある。	共有不足を感じることもある。ケース記録の活用の他、児発管への相談、翌朝でのミーティング等を通じ、情報共有を密にする。日誌やグループウェアを介し、職員が揃わない時も密な情報共有を行う。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年3月13日

事業所名 デイサービスセンターあおば

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
支援の提供	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	67%	33%	・ケース記録に支援結果を記録。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	67%	33%	・お知らせ等を配布している。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	17%	17%	・未回答4 ・現状該当児童がいない。	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	17%	17%	・未回答4 ・現状該当児童がいない。	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・保育所等訪問支援実施。 ・必要があれば、保育所等訪問や情報共有がされている。	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・必要に応じて行っている。	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	83%	17%	・研修への参加。	
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%	・事業所自体の行事での設定はできていない。地域資源の活用時（公園の遠足で）、障害のない子供と接する機会はあった。	事業所の特色を残しつつ、保育園巡回や園までの送迎等にて交流の機会を検討する。
	29 (自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	67%	33%		公表されている情報を共有する。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	33%	67%	・保護者向けの研修会等の情報提供 ・保護者から児童への関わり方等で相談があった場合には、家庭出来そうな具体的な方法を提案したり、ペアレント・トレーニングのエッセンスを伝えたりしている。	ペアレントトレーニングの紹介を行う。プログラムを取り入れたイベントの実施。ペアレント・トレーニング等の研修を受け、専門知識を高める。
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		
33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%			
34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	・定期的ではないが、相談日時を調整し、場所、時間を設定して応じている。	面談の希望を伺い、適時実施する。	
保護者への説明責任等	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	83%	17%	・茶話会（保護者企画）の情報提供を行っている。 ・保護者懇談会を実施。	保護者懇談会の周知を強化する。また保護者会開催後には、その内容を広報誌以外でもお伝えする。
36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	83%	0%	・未回答1		

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年3月13日

事業所名 デイサービスセンターあおば

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	・広報の配布とブログでの発信。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	・ツールの活用。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	67%	33%	・地域交流会を実施した。 ・事業所自体に招待する形ではないが、シニアボランティアを受け入れた。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	83%	17%		マニュアルを策定し、訓練等を実施しているが、保護者への周知は十分とはいえず、保護者周知を図る。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	・毎月避難訓練を行っている。（火災・地震・不審者等）	今後は風水害の訓練も実施する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	・服薬がある場合は「服薬記録票」を記録して持参してもらうようにしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	33%	67%		・回答時は、食物アレルギーのあるお子さんがいないが、必要に応じて保護者の要望に沿った対応、医師の指示書に沿った対応を行う。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	・アクシデント・インシデントレポートが閲覧できる状態である。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	50%	50%	・ガイドラインはあるが、該当する事案がなかった。	・回答時は該当者なし。身体拘束の具体的な内容についてと児童発達支援計画に記載されていない理由は職員間で共通認識を持つ。（職員間で読みあわせをした後、個人で評価をすることも必要）